

～推薦入試特集～

▶ 配点

| | 国語 | 数学 | 外国語 | 社会 | 理科 | 小論文 | 面接 | 自己推薦書 | 調査書推薦書 | 合計 |
|-------|----|----|-----|----|----|-----|-----|-------|--------|-----|
| 共通テスト | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | — | — | — | — | 250 |
| 二次試験 | — | — | — | — | — | 300 | 150 | 10 | 40 | 500 |

🔍 推薦入試概要

- ・受験方法.....受験資格の取得→共通テスト受験、自己推薦書作成→二次試験（小論文と面接）
- ・受験資格.....英検1級、TOEFL iBT93点以上、IELTS Overall6.5以上、独検準1級、日商簿記1級、数学オリンピックでの好成績など。

こんな人におすすめ！

学校の成績や行事を含めた課外活動に力を入れてきた人。英語などの外国語が得意な人。
志望理由が明確であり、自己分析が得意な人。

合格体験記

経済学部 Sさん

一橋を受験することを決めた中3の時点では一般入試を考えていました。高校に入学してからは部長や体育祭の実行委員長などを務めました。英語が得意という強みが活かせると思い、チャンスを増やすため高3の春に受験を決めました。高3の夏休みまでの英語の資格取得を目標にして勉強しましたが、6月に受験した英検1級は不合格となり、IELTSの受験を決めました。夏休みの最初の2週間を対策に回し、資格を取得しました。取得後は一般入試の勉強をしていました。共通テストのボーダー得点率を超えているとわかった後に推薦入試対策を始めました。小論文は慶應の経済学部の過去問を解いて対策をしました。推薦の合格が決まるまでは私大の勉強、推薦入試対策、二次試験対策を並行していました。

商学部 Yさん

高2の夏に推薦入試について知って、大学受験のレベルを超えた英単語を覚える必要がないIELTSを選びました。高2の12月中旬から3か月間はIELTSの勉強に集中し、3月の受験で出願条件を満たした後は共通テストと一般入試の対策を両立させました。11月以降は共通テスト対策に集中し、共通テスト後に書き始めた自己推薦書には、自身の学びや一橋を選んだ理由などについて書き、学校や予備校の先生にフィードバックを頼みました。面接対策は参考書を読み、小論文は慶應義塾大学や静岡大学、横浜市立大学の小論文や国語の過去問で演習を重ねました。面接本番は自分が大学の求める学生像と合致していることのアピールを意識しました。